

箱崎中学校移転新築及び教育研究施設新設 基本計画

1. 計画の位置付け

九州大学箱崎キャンパス跡地については、地域とともに作り上げたランドデザイン（平成30年7月策定）の実現に向け、周辺地域との調和・連携・交流に配慮した多様な機能の誘導や一体的なまちづくりなどに取り組んでいる。箱崎中学校は跡地内の南エリアに移転新築を行うこととしている。

また、この移転整備と合わせて、個別最適な学びと共同的な学びの一体的な充実を推進する最先端の学びの拠点として、教育研究施設を整備する。

本計画は、両施設の設計や工事にあたり、基本的な条件設定等を行うものであり、基本設計については本計画に基づき進めることとする。

2. まちづくりの計画

2-1. 九州大学箱崎キャンパス跡地利用計画（平成27年3月）

〈まちづくりの方針〉

- ①福岡市の持続的な成長に資する新たな活力・交流を生み出す
- ②九州大学が存在した地として充実した教育・研究の環境を生み出し、人を育てる
- ③高度医療施設の立地や高い利便性を生かして、安全・安心・快適で健やかに暮らす
- ④千年のまち、大学百年の歴史文化資源を大切にする
- ⑤次世代の環境技術と豊かな緑を生かして環境と共生し、持続可能なまちをつくる

2-2. FUKUOKA Smart EAST

少子高齢化など、まちづくりの様々な課題を解決しながら、持続的に発展していくため、最先端の技術革新の導入などによる、快適で質の高いライフスタイルと都市空間を創出し、未来に誇れるモデル都市を創造していくものである。まずはその先駆けとして、箱崎のまちづくりにおいて取り組んでいる。

2-3. 箱崎キャンパス跡地ランドデザイン（平成30年7月）

〈まちづくりの基本的な考え方〉

九州大学が百年存在した地としてのブランドと、広大な敷地や交通といった強みを生かし、働く人や学ぶ人、住む人、訪れる人などこれまで以上に幅広い人々が集まり、イノベーションを生み出す新たな拠点を創出する。

千年以上に渡る箱崎の歴史や文化も踏まえながら、新たな拠点の創出に向け、イノベーションを生み出すチャレンジできるまちと、幅広い人々を惹きつける高質で快適なライフスタイルや都市空間づくりに取り組み、未来に誇れるまちを創造していく。

3. 事業スケジュール

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目以降
	基本設計	実施設計	建設工事		移転準備	移転
				グラウンド等 外構整備工事		既存校舎 解体工事

4. 敷地概要

4-1. 敷地概要

所在地 : 福岡市東区箱崎六丁目 3330 番 3
 敷地面積 : 約 30,000 m²
 用途地域 : 第二種住居地域
 建蔽率 : 60%
 容積率 : 200%
 防火地域 : 指定なし
 高度地区 : 第二種 20m高度地区
 航空機騒音に関わる区域 : 第一種区域
 時間帯補正等価騒音レベル (Lden) : 62 デシベル以上
 特定まちづくりルール区域 (箱崎小まちづくり委員会)
 高潮浸水想定区域 : 3.0m以上
 洪水浸水想定区域 : 0.5m未満

日影規制

敷地東側は第一種住居地域が設定されているため、高さが 10m を超える建物に対して日影規制が発生する。

高さ制限

北側隣地境界線または北側道路の反対側の境界線から真南に向けて斜線制限が発生する。

4-2. 接道・周辺状況

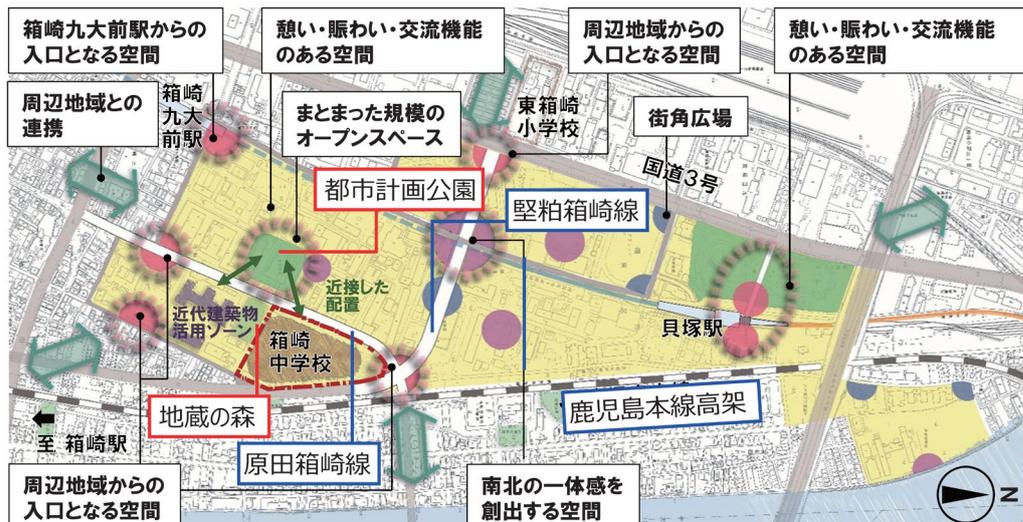
○ 接道状況

東側 : 幅員約 28~31m (都市計画道路 堅粕箱崎線)
 西側 : 幅員約 19m (都市計画道路 原田箱崎線)

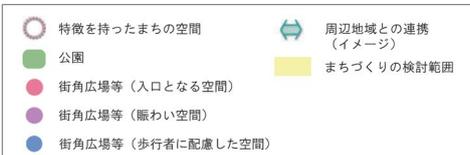
○ 周辺状況

東側 : 都市計画道路及び J R 鹿児島本線高架を挟み住宅地と近接
 西側 : 都市計画道路を挟み、都市計画公園や事業区域と隣接
 南側 : 緑地及び近代建築物活用ゾーンと隣接
 北側 : 交差点を挟み、事業区域と隣接

4-3. 箱崎キャンパス跡地周辺の整備イメージ



出典 : 九州大学箱崎キャンパス跡地ランドデザイン



4-4. 敷地条件（箱崎キャンパス跡地グランドデザイン）

① 道路のセットバック

《イメージ》

計画地西側道路沿いに幅員 2.0m 以上、
東側道路沿いに幅員 1.0m 以上のセット
バック空間を設ける

② 街角広場の設置

計画地北側の交差点に面して、100㎡以上
の街角広場を設ける

③ 計画地の緑化

計画地は 20%以上の緑化率を確保する



5. 中学校の計画条件

「福岡市小中学校施設整備指針」を基本として、福岡市における直近の中学校整備事例を参考に、計画条件や整備の基本的な考え方を次に示す。

5-1. 前提条件

- ・ 直近の学校整備事例より、4層程度が望ましい
- ・ 諸室の整備は「諸室リスト」の通りとし、ICRの規格は8.0m×8.0mとする

5-2. 整備の考え方

① 柔軟で創造的な学習空間を実現する施設づくり

- a. ティーム・ティーチングなどの少人数学習やグループ学習など、多様な学習形態に対応
- b. 1人1台端末環境などの新たな学習形態に対応したゆとりある施設
- c. 校舎の共用部に、学年毎の集会など多目的に使用できるスペースを確保
- d. ICTや図書を活用した多様な学習形態に対応できる図書室

② 健やかな学習・生活空間を実現し、“安全・安心”を感じられる施設づくり

- a. 使い勝手が良く過ごしやすいゾーニング及び動線に配慮したゆとりある施設
- b. 普通教室の近くに手洗いを設置するなど、感染症対策に重点を置いた施設
- c. バリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮し、円滑に使用できる施設
- d. 気候の変化に対応し生徒が快適に過ごせる環境
- e. 基本的な運動場機能に加え、ゆとりのある運動場
- f. 九州産木材等による内装の木質化を図り、やさしさや温もりを感じることができる施設
- g. 学校運営のあり方や教育現場の実情を踏まえ、生徒や教職員が利用しやすい動線や教職員の職場環境向上を考慮した施設

③ 地域住民が利用しやすく、災害時にも強い学校づくり

- a. 運動場や体育館等の地域開放を想定し、利用しやすい配置やセキュリティを確保した施設
- b. 歩行者と車両のアプローチは、安全かつ明確に区分
- c. 箱崎中学校の歴史資料を展示する、資料展示室を整備
- d. 地域の避難所としての役割を踏まえ、十分な安全性と防災機能を確保した施設

5-3. 環境配慮とコスト低減に関する考え方

① 環境負荷の低減や自然との共生を考慮した整備推進

- a. 環境性能評価指標の評価項目等を踏まえ、太陽光発電等の環境負荷の低減に配慮した施設
- b. 福岡市役所地球温暖化対策率先実行計画に基づき、省エネ性能の向上を図った施設
- c. 周辺の豊かな自然環境や景観との調和が感じられる施設

② 周辺環境への配慮

- a. 騒音や日照、プライバシーなど、校舎や教室等の配置について周辺環境に配慮した施設

③ 将来を見据えた施設整備やライフサイクルコストの低減

- a. 学習形態や社会的な変化に対応し、ニーズに応じた改修をしやすい施設
特に職員室は拡張可能な配置とする
- b. 長期間の活用を見据えるとともに、施設の維持管理（施設の内外部改修、設備機器更新等）が容易にでき、またその費用を低減できる施設

5-4. 諸室リスト

施設区分		施設内容
校舎	普通教室	24CR（通常学級19CR、特別支援学級5CR）
	特別教室	理科室4CR、音楽室4CR、美術室2CR、技術室3.5CR、調理室2CR、被服室2CR、図書室2CR、ICT活用スペース2CR、相談室0.5CR、適応指導教室1CR、生徒会室0.5CR、多目的教室5CR 等
	管理関係諸室	校長室0.5CR、職員室3CR、保健室1CR、事務室0.5CR、用務員室1CR、会議室1CR、PTA会議室0.5CR、印刷室：0.5CR、職員更衣室・休養室：1CR、放送室：0.5CR、教具室：0.5CR（各階1カ所）、資料室：0.5CR、給食受所：1.25CR、電気室：1CR程度、機械室：1CR程度 等
	通路等	昇降口、一般玄関、廊下、階段、トイレ（生徒用、職員用） 等
体育館・武道場	アリーナ、ステージ、柔道場、剣道場、防具室、更衣室、器具庫、倉庫、トイレ 等	
プール※暫定	プール、更衣室、シャワー室、トイレ 等	
運動場	トラック、走路、球技スペース、体育用具室、クラブ室、砂場 等	
屋外関係	通用門（正・副）、物品庫、倉庫、危険物倉庫、外部トイレ、ゴミ置き場、駐車スペース、太陽光パネル、マンホールトイレ 等	

※その他 FUKUOKA Smart EAST 箱崎キャンパス跡地グランドデザインやまちづくりの計画等を踏まえた計画とする。

6. 教育研究施設の計画条件

6-1. 教育研究施設とは

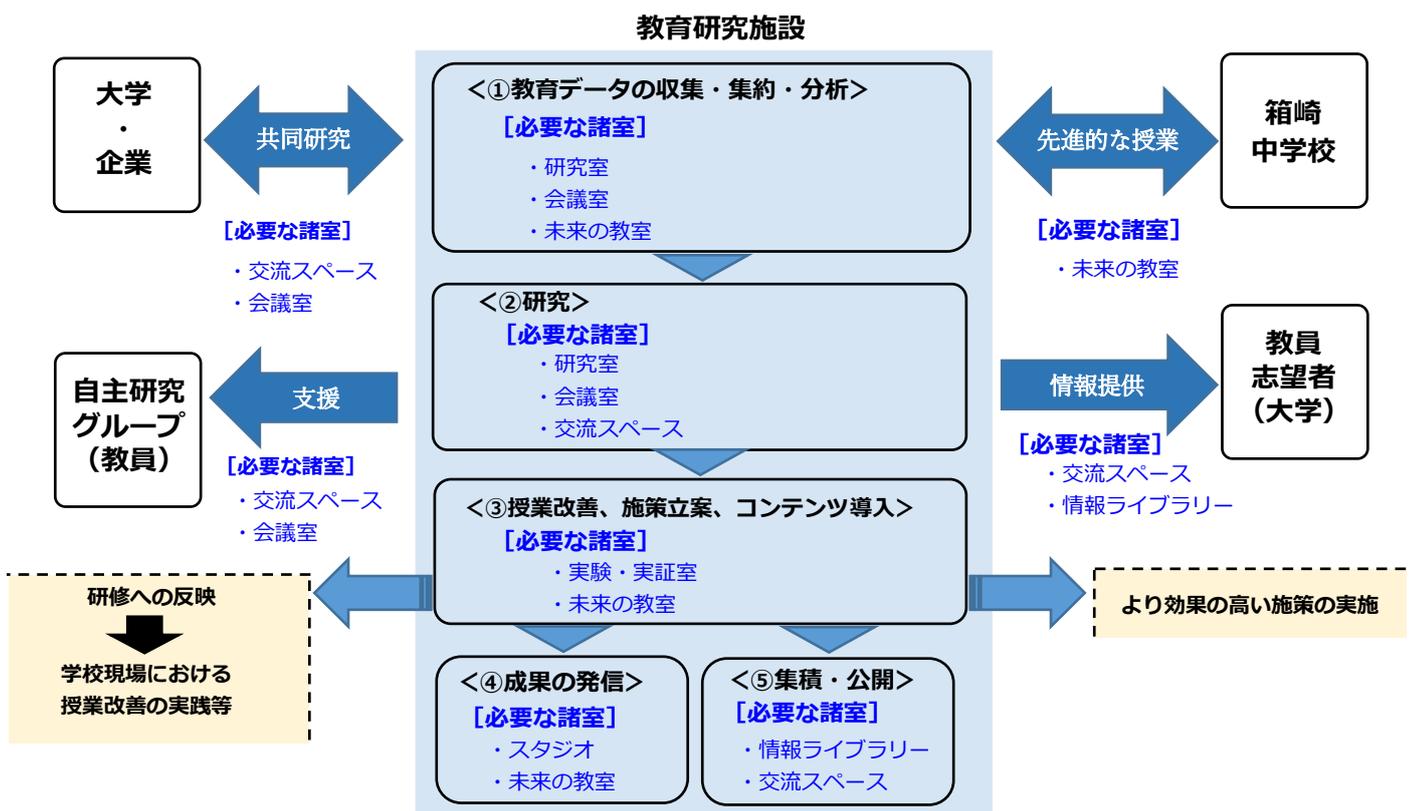
九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくり全体のコンセプト等を踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を推進する新たな学びの拠点としての機能を有する施設。

6-2. 前提条件

- ・箱崎中学校との連携を想定し、校舎と一体的な建築とし、相互往来が可能な形態とする。
- 一方で、双方の施設における使われ方（使用時間帯、管理方法、施設利用者等）が大きく異なることから、セキュリティ上の課題や施設管理上の課題があるため、機能的に分離する。
- ・敷地内の動線や駐車場についても分離した計画とする。外観については、中学校敷地内の配置となることを踏まえ、華美なものとはせずに校舎と調和を取るよう計画する。
- ・諸室の整備は「諸室リスト」の通りとし、ICRの規格は8.0m×8.0mとする

6-3. 整備の考え方（教育研究施設の機能）

- ①教育データの収集・分析に基づく施策立案や授業改善等に向けた研究 [研究室・未来の教室]**
 - ・各種データの収集・集約・分析に基づく授業改善や教育施策の立案、及び最新のコンテンツ導入のための研究
 - ・最先端のICTやフレキシブルな学習環境による未来の授業の試行
- ②小中学校への一斉配信や研究成果等の発信 [スタジオ]**
 - ・感染症拡大など非常時における学びの機会の確保や、著名人による講演などを全市の小中学校へ一斉配信
 - ・研究成果等の集積や発信
- ③大学・企業等との協働の促進、教員志望者等への支援・情報提供[情報ライブラリー・交流スペース]**
 - ・教育データや研究成果などを活用し、大学・企業等との共同研究
 - ・現役教員等と交流する場や、教員志望の大学生への情報提供



6-4. 諸室リスト

機能		説明	
研究室	職員	2.0CR	20人程度の執務スペース（ミーティングスペース含む） ※フリーアドレス
	長期研修員	1.0CR	12人程度の執務スペース（ミーティングスペース含む） ※フリーアドレス
	実験・実証室	2.0CR	火気や水を使用でき、防音性あり。施錠可能な小スペース（準備室）を併設。
会議室		1.0CR×3 0.5CR×4	平時の内部協議、対外協議（オンラインミーティング含む）に加え、災害時等の授業配信（9学年分）を想定し、1.0CR×3は、0.5CR×6室から3.0CR×1室まで、仕切りは可変とする。 自主研究グループ等の活動の場としても活用。
未来の教室		2.0CR	最先端のICTとフレキシブルな学習環境で、未来の授業を試行できる教室。 教師の指導や生徒の理解度等のデータを収集。
スタジオ		1.5CR	動画コンテンツの収録（1.0CR）・編集（0.5CR）や、小中学校への一斉配信のスペース。
交流スペース		2.0CR	教員や、教員志望の大学生等が自由に交流できる空間。
情報ライブラリー		2.0CR	教育データや研究成果の検索・閲覧システムの配置、書棚と書籍等の閲覧スペース。
その他の諸室	所長室	0.5CR	
	受付	0.5CR	
	ロッカー	0.5CR	
	書庫	2.0CR	
	倉庫	1.0CR	
	機器保管室	2.5CR	
	清掃員控室	1.0CR	
	トイレ・給湯室	0.5CR×2	
エレベーター		-	
廊下・階段 等		-	

7. 整備条件

7-1. 配置計画

敷地形状や「九州大学箱崎キャンパス跡地グランドデザイン」に基づく開発計画（まちづくり）を踏まえ、敷地の利用計画・校舎棟体育館棟および、教育研究施設等を配置する。

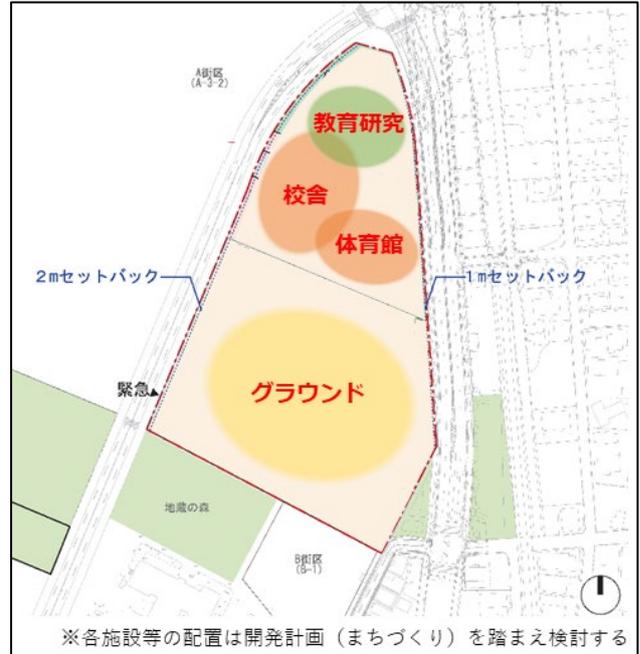
グラウンドは、出来るだけ整形に確保し、校舎棟をグラウンドに面するよう配置する。

○ 門の配置

周辺の状況及び通学路を踏まえ、歩行者を主とした正門・副門、車両専用門、必要に応じて緊急用の門を配置する。

また、教育研究施設の配置に応じて、専用の門を設置する。

《検討段階でのイメージ》



7-2. 環境配慮に関する条件

○ ZEB化

「福岡市役所地球温暖化対策率先実行計画（令和4年3月）」に基づき、原則 ZEB Ready 相当以上の省エネ性能を目指す。

○ 木材の活用

生徒が、日常的に手を触れる部分や目に触れる部分を木質化することで、温かみと潤いのある教育環境を整備する。

○ 計画地の緑化

箱崎キャンパス跡地グランドデザインにより、20%以上の緑化率を確保する。またその中で計画地内に残存している樹木や現箱崎中学校の樹木など、可能なものは移植をあわせて検討する。

○ 太陽光パネルの設置

環境性能評価指標の評価項目等を踏まえ、太陽光発電などの、環境負荷の低減に配慮した施設を整備する。

○ 再生水の利用

「福岡市節水推進条例」より、大型建築物の建設の際、節水計画書の提出及び雑用水道の設置が義務付けられている。本計画地は再生水の供給区域に含まれるため、広域循環型雑用水道を設置し、再生水を水洗トイレ等に利用する。

(参考) 水素エネルギーの活用

本計画地を含む FUKUOKA Smart EAST 街区への水素実装の目的は、水素社会の実現に向けたモデルを示す「普及啓発」や「需要の創出」に取り組むことであり、「水素ステーション」及び「水素供給パイプライン」を整備し、街区内の施設に対して水素供給が行われる予定である。

7-3. その他の条件

○ 防災機能

- ・ 高潮浸水想定区域が 3.0m 以上と設定されているため、講堂兼体育館は 2 階以上の高さに設定する。
- ・ 講堂兼体育館に、非常用電源の接続口（接続盤）を設ける。非常用電源は、可搬型発電機や電源車等を想定する。
- ・ 計画地内にマンホールトイレを設置する。
- ・ 公園と防災の連携を図る計画とする。